



わたしたちの 目指す地域は

6年後に「どんな地域にしたいか」「どんな地域を目標とするためにできること（活動）を考えました。

「〇〇があったらいいな」「〇〇になっているといいな」
1人ひとりの小さな思いや活動の積み重ねが、より

目指したいか」について話し合い、5つの

「〇〇ならできそう」などメンバーの思いが込められています。
良い地域につながっていきます。



つながり・居場所・交流

目標①

人と人がつながる
地域を目指そう!!

そのために

- ① 交流の場を見に行こう
→ 近隣の施設やサークル、公的な施設、スタンプラリーを活用した地域巡り、あの噂の「うなぎ」を食べに行ってみよう
- ② 自然と挨拶を交わせる環境をつくろう
→ 多世代交流として、夏祭りや多摩川の盆踊り、防災訓練、フリーマーケットに参加

情報・広報

情報を
みんなが等しく

そのために

- ① うちの地域のマップを作ろう
→ 町内会や自治会が協力し、地域を身近に感じられる広報が欲しい

目標②

得られる地域を目指そう!!

- ② スマホやYouTubeを見られるようにしよう
→ スマホ教室で高齢者向けのYouTube視聴講座を開催
- ③ 情報保障を担う人材を育成しよう
→ ミニ手話講座やスマホ、PC講座を開催

価値観・相互理解

目標③

ふらりと出かけられる
地域をつくろう!!

そのために

- ① 今ある場所を活用する
→ 公共施設や自治会館など
- ② 居心地のいい空間を作る
→ 健康グッズが置いてあり、自然に交流できる
- ③ 掲示板の活用
→ 情報収集ができる場所

目標④

ゆるいつながりでちょっとした
手伝いがお互いにできる地域をつくろう!!

そのために

- ① ちょっとやってみたい人、ちょっと得意な人を見つけよう
- ② 困っている人の情報を集めよう
→ 核となる団体（自治会や老人クラブ、ひだまりサロン等）に声掛け
- ③ 集まった人たちで見学ツアーをしよう
→ すでに活動している団体をたくさん見学して良いとこ取り
- ④ できることからやってみよう
→ 活動が固まってきたら少しずつエリアを広げていく

手助け・助け合い・協力

目標⑤

イベントや行事を中心に
新しく創造してゆく地域を目指す!!

そのために

- ① 世代を超えたつながりをつくろう
→ スポーツ、手話、昔遊びなど多様なテーマを通じた交流
- ② 既存の地域活動（季節行事）を盛り上げよう
→ 参加者を限定しない、次の世代へ継承
- ③ 有事を想定した取り組みの実施
→ 意識・関心を高め、それぞれができることを考える
- ④ 自由な発想で楽しいことを考えよう
→ 色んな「楽しい」が多くの人に興味を与える

担い手・多様な人の参加



目標ができるまで ～〇〇を目指して～

色々な立場の方たちのグループワークは自分では思いつかない素敵なアイデアがどんどん出て、とても楽しかったです。
福祉まつり実行委員 杉山 典子

地域をよく知る皆さんと有意義な話し合いが出来、新しい街づくりの視点やアイデアなど大切なことを学びました。
多摩川地区協議会 佐藤 恵子



みなさんの意見ががとても刺激的でした。話し合いではどんなみなさんの笑いが増えていったことがとても嬉しかったです。
地域福祉ファシリテーター 養成講座修了生 森 まり子

地域福祉ファシリテーター 養成講座修了生 森 まり子

誰かに良くて誰かに不都合な事例が多いこと、地域の世代交代の難しさなどの課題が印象的。誰もか少しの不便を分かち合う仕組みができた。
多摩川地区協議会 熊谷 里佳

同じ地区の住民と意見交換する経験は初めてでした。住環境が変わり、近隣住民との接し方が変化する中で、有意義な意見交換することができたと思います。ありがとうございました。
民生児童委員 田中 茂和

それぞれに地域性がある。各地域や人によって行っている祭りやコミュニティ、考え方に違いがあることに気づいた。
民生児童委員 中村 悦子

地域の強みや弱み、地域の交流を促すための方法が多様にあることがわかりました。次回の策定に向け、小規模の委員会形式の継続協議も必要。地域の交流が進むことを期待しています。
はあと・ふる・えりあ 羽曾部 陽

第1回 令和5年3月14日 〇〇を知る

「住みやすい地域とは」「地域の好きな・よい・素敵なところ」

第一

- 自治会の活動が活発！
- 多世代の人材がいて農家が元気！（調布のやさしい畑）
- 公共施設が多く買い物が便利！

多摩川

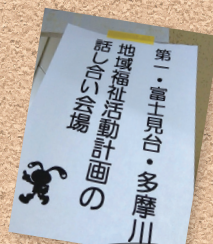
- 自治会の規模が大きくイベントが多い！
- 新しい人が多く、子育て世代が多い！

富士見台

- 近所に大人も子どもも集まる公園がある！
- 畑が多くてホッとする。
- 多摩川でゆったり。



ちよびットも参加して和やかな雰囲気



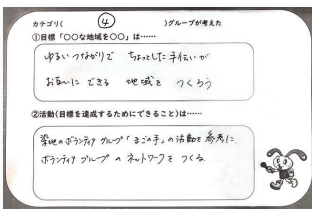
社会の多様化の変化により行政にお任せではなく、自ら参加し地域と支え合い、繋がりを大事にしながら暮らせる地域づくりが必要ではないかと思いました。
民生児童委員 原 喜代子

実際にできるのか…
だれがやるのかなあ。

第3回 令和5年6月27日 〇〇したい

「6年後にどんな地域をつくりたいか」「そのために何ができるか」

地域福祉活動計画に参加させて頂きありがとうございました。また「つながる」大切さ「居場所」の必要性を改めて感じる場でした。
旭出調布福祉作業所 八重樫 央行



第2回 令和5年5月30日

〇〇が足りない？ 〇〇が必要？

「地域の課題だと思うこと・解決したいこと」

第一 富士見台 多摩川

- ・隣近所とのあいさつが減っている。
- ・交流の機会が少ない。
- ・必要な情報が必要な人へ届かない。
- ・PTAや自治会など地域活動の担い手が不足している。



ワールドカフェ形式で、
新たな気づきや考えを得る！

まずはお互いを知ることから始めました！

挨拶をしない、イベントの担い手がいなくて、PTAも無くなり近所のつながりも無い、なんとなくでは等の住んでいらいや方からの切実なお話が印象的でした。暖かい街として発展してゆきますように。
リフレッシュ工房 由良 洋子

様々なお立場の方と一緒させていただき、自由に意見交換する中で新たな視点をいただくことができました。
ひだまりサロン「みんなDEネットサロン」 武井 慈

面識のない方々と、地域について真摯に話し合いを重ねられた事が有意義。地域特性を知る重要性。
ケアプラン大地 長谷川 千夏



みんなが住みやすい地域とはどんな地域なのか、
地域の強みや課題、お互いの考えなど自由に意見を出し合いながらみんなで〇〇について考えました。

今回は富士見台の大先輩ともお会い出来てお元気で、それぞれの場所で活躍されていて嬉しかったです。第一、多摩川とお隣地区ですが、やはり校区の雰囲気か？考え方も違うんだなと驚きと共に新鮮で、私も自分の地区に少し違う風が吹き込めたらなと思いました。
富士見台地区協議会 武藤 貴子

はあと・ふる・えりあ
で行いました！



たまの手の見学の報告は、自分達でできる地域の助け合いを知る事ができ、工夫と気持ちが大切と思いました。
地域包括支援センターちようぶ花園 阿部 夏樹

住みやすい街、便利な場所、コミュニティの理想像など最初に考えた個人個人の内容が、実際には「絆」や「助け合い」、「文化の継承」という他者との共存共栄を望む声に変化した瞬間。
総務部会委員 佐々木 尚代

どうやって
始めればいいのか？
何をすればいいのか？
から 実際に活動団体に
突撃インタビュー！

第3.5回 令和5年7月25日 〇〇ができる？

「活動するうえで意識していることはありますか？」
「ちょっとおせっかいな人を見つける方法はあるですか？」
「活動の最終目標はなんですか？」

活動団体：たまの手



色々な方と意見を交わらせて大変参考になり、これからの活動に、役立てればと思います。
民生児童委員 田村 恭子

地域に関わられている方々と「少しでも住み良い街を作りたい！」という熱い思いを共有できたのは貴重な経験となりました。有難うございました。
調布市聴覚障害者協会 井村 茂樹

なが〜い会議の
エネルギー補給

提供団体

- ・はあと・ふる・えりあ
- ・クッキングハウス
- ・リフレッシュ工房

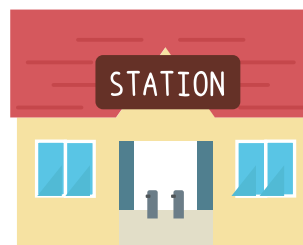


多摩川住宅ボランティアグループ「たまの手」代表さんのお話が印象的でした。頑張りすぎない、という視点は新鮮でした。
地権生活支援員 島津 雅栄

他の地域や活動と同じことはできないけど、みんな思いはある。小さなことからやってみよう！

第4回 令和5年8月30日 〇〇やってみよう

「あったらいいな」「できたらいいな」「できそう」



地域をよりよくしたいという気持ちを皆さんが持っている。私もそう思っています。急がず少しずついい事もそうでない事にも向き合って行きたいです。何より会議でしか会えなかった方々と話し合えたことは素敵な時間でした。
民生児童委員 小島 嘉子

様々な立場の人が、地域を良くしよう、住みやすい街にしようと奮闘されている姿をみて私も元気をいただきました。
くすのき会 宮脇 達也

生活をし易くする為の取り組み、支援などを再認識する話し合いの日々でした。とても学びの場に参加させていただきありがとうございました。
多摩川小学校 地域学校協働本部 コーディネーター 岩倉 真弓

生活環境が激変しているとの実感です。ふれあいの場の確保と、情報共有の身近なお膳立てが急務と感じております。
上布田第三自治会 杉本 勝

参加されている皆さんが非常に積極的に計画作成に参画しようとしておられる姿勢には大きな感銘をうけました。素晴らしい活動計画の源泉そのものでしょう。
さくら会(調布市老人クラブ連合会) 田中 紀雄

自治会の活動を改めて考える機会となった。高齢者の多い自治会で若い夫婦家庭と問題点にギャップがあり、高齢者は回覧のやり取りの難しさなどを理由に脱退者が多い。今後自治会として、高齢者の対応と動向について考えていきたい。また、自治会内の公園2か所を資源として活かしていきたい。
富士見台地区協議会 尾形 龍雄



初めて集まるメンバー24名で話し合いを重ねました

推進に向かってGO!

6次に向けて出発！

第三・石原・飛田給小 圏域

この圏域で行われている取り組み



西部飛田給自治会 ハロウィンイベント



下石原八幡神社祭礼



富士見町 盆踊り大会



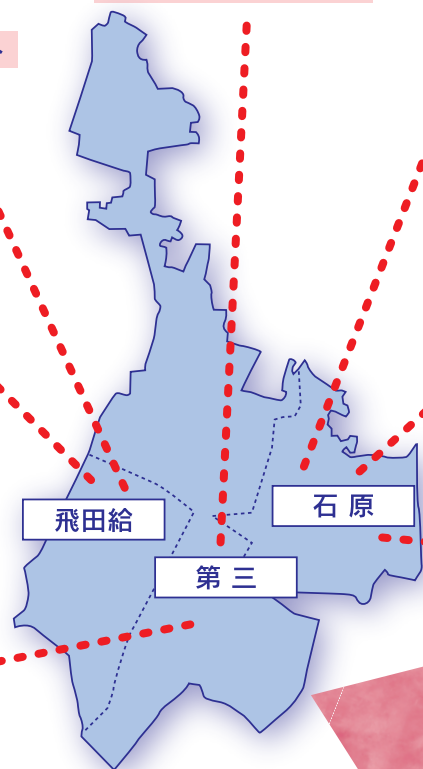
飛田給地区 防災訓練



こども食堂かくしょうじ



近藤勇 生誕地まつり



ふじみ合同防犯パトロール

私たちが作りました!!



策定までの流れ

<3月~4月 アンケートの実施>

会議を始めるにあたって、地域活動の状況や活動に対する意見を募るアンケートを実施しました。

その結果、8割の方が地域活動に「参加している」「参加したい」と思っていることが分かりました。「時間」「場所」など参加のしやすさと何より自分が「楽しい」と感じることでした。

<6月12日(月) 第2回 開催>

第1回で出された意見を眺めて、共感できる意見にシールを貼りました。「妄想大会」と称し実現可能かどうかはさておいて「こんなことができれば楽しそう!」「面白そう!」とアイデアを出し合いました。



<9月13日(水) 第4回 開催>

みんなで苦労しながら、これまでの意見や想いを込めて、4つのテーマについて目標を定め、この地域の計画としてまとめました。



アンケート結果をもとに、会議の名称を「もっと楽しく住みやすい地域について語る会」としました。

<4月24日(月) 第1回開催>

「もっと楽しく住みやすい地域」について策定メンバーで話し合いました。アンケートの集計結果を見ながら、「こんなことが気になっている」「こうであったら安心する」「もっとこうなったら楽しそう」など、地域に対する思いを語り合いました。



<7月24日(月) 第3回 開催>

第2回の「妄想大会」から、地域に必要なこととして「まつり・イベント」「場所」「情報」「気づき・学び」の4つのテーマに絞りました。それぞれのテーマについて、楽しくできそうなこととして、具体的な活動を考えました。



「もっと楽しく住みやすい地域について語る会」でまとめた4つの目標は次頁に!



目標 1 楽しさを共有して、みんなでつながろう

背景 担い手が減少し、従来のようなお祭りやイベントの実施が難しくなっており、若い世代の担い手が必要となっている。
子どもたちにお祭りやイベントの楽しさを知ってもらえるような「きっかけ作り」が必要である。

アクション

- ① 担い手や資金等の不足を補い、地域とのつながりをさらに深めるために「地元企業・商店」との連携や協力をするすることで、幅広い年齢層が関わり、楽しめるイベントを企画・実施していこう！
- ② 子どもたちは、友達や仲間と一緒にあればお祭りやイベントへ参加しやすいため、子どもたちが所属する学校や児童館、部活やクラブ等へ「グループでお祭りやイベントに行く」ことを働きかけよう！

目標 3 身近な情報をいつでもどこでもタイムリーに！

背景 人と人、人と情報が行き交うことで、日々の安心につながる。
安心することで、地域での生活を楽しむことができ、さらに地域の活動が活発になる。
身近な情報は新たなつながりを生み、地域での孤立を防ぎ、世代ごとの悩みや不安を軽減できる。

アクション

- ① 高齢者の方を対象にSNS・スマホ講座を開催し、スマホをより身近に活用できるようにしよう！
- ② あらゆる世代の人が地域活動へと参加するきっかけづくりのために、情報を伝える・受け取る方法として、自治会や地域活動団体のHP、公式LINE等を活用しよう！

目標 2 地域で活用できる場所を見つけよう・知らせよう・発掘しよう

背景 活動を始めたくても、個人で場所を確保することが難しい。
公民館や公園など地域の公共施設がどんな条件で利用できるか分からない。
知らないだけで、利用できる施設があるのではないかな。
公共施設以外にも、企業やお店、民間の施設の協力が地域にあるとよい。
地域の中に「あそこに行けば…！」と思えるような場所が欲しい。

アクション

- ① 活動の拠点となりえる場所を見つけてマップにしよう！
- ② 見つけた場所で気軽に話せる居場所をつくろう！
活動したい人につなげよう！

目標 4 様々な体験を通してお互いを知り、次の関わりへつなげていこう。

背景 子どもの頃からいろいろな人たちとの関わりを学んでほしい。
実際に体験したり関わることで楽しみながら気づけることがある。
その気づきが人生を豊かにする。
いろいろな人が集まり、多様な人がいるということに気づける機会があるとよい。
伝統や技術を後世に伝えたい。でも楽しくないと続かない。

アクション ひだまりサロンや自治会の取組みなど、既存の活動を活用して“多様性”を知るきっかけを作ろう！